

を拝聴した。

今野泰樹 海将補は、昨今のインド・太平洋地域における安全保障環境の厳しさの高まりとともに、海上自衛隊・呉地方隊の任務と重要度の増大について、ユーモアを交えた興味深い講話を聞くことができて大変有意義であった。

続いて、13時15分から情報交換会を実施したが、岡山県隊友会と共催のため旧知のOBとも再会して近況を交換し合うなど、相互理解を深めた。

約2時間の楽しい時間はあつという間に過ぎて、名残惜しかつたが来年の再会を約して散会となつた。

## 青森県偕行会

### 「第2回弘前忠靈塔例大祭」等 に協力

会長 稲村孝司 陸自75期

7月27日（日）「第3回弘前忠靈塔例大祭」が行われた。遺族会や県偕行会、県隊友会、弘前駐屯地などの関係者や国会議員、県議ら約60人が参列し、戦没者を供養するとともに平和への祈りを捧げた。県偕行会は、例大祭への協力は勿論、前日の同塔周辺の草刈り清掃奉仕にも現役自衛官70名の協力を得て協力した。同草刈り清掃奉仕は昨年からは例大祭前日に行うこととなつた。草刈り清掃が終わった会場では、テント張り等の例大祭

準備にも汗を流した。テントは学校での運動会等で使われている鉄パイプの8本

支柱の重いもので、高齢役員12名による作業は難儀なものだつた。テント張りの後には、来賓者用の椅子、一般参列者用のパイプ椅子を並べ、忠靈塔本堂での慰靈行事の中心となる弘前市を代表する長勝寺、本行寺、海藏寺及び遍照寺の四住職による読経の準備を行つた。

例大祭は、猛暑の中、9時半から準備に取り掛かり、11時から国歌斉唱に始まり、慰靈行事として四住職による読経による戦没者の慰靈が行われた。読経の間、参列者は本堂で順次焼香を行つた。引き続き、例大祭行事に入り、須藤会長の挨拶、来賓として弘前市長代理、岡田華子衆議院議員代理、阿部廣悦県英靈にこたえる会会長が挨拶した。来塔者感想文の紹介後、「海行かば」を齊唱して交歓会へ移行した。

交歓会は、長勝寺内の「御成りの間」で行われた。長勝寺は津軽家の菩提寺で、同室は殿様の為に設けられた床の間であつた。同室への移動は、忠靈塔から長勝寺の庭に面した縁側から、約150歩歩いてとなつた。交歓会は、弘前市福祉部長、遺族会会長、県議会議員、市議会議員等36人に対して、忠靈塔を守る会の活動を紹介し、戦没者の慰靈の場として維持・管理に一層の理解を深める機会民に大きな関心を呼んだ。

タイトル「戦没者供養 平和へ祈り弘前忠靈塔で例大祭」と共に忠靈塔と大

市長代理で参加された福祉部長は、春

に着任された女性部長で弘前地区保護司会も担当している。昨年参加された部長は早々に退席されたが、今年の部長は女性会員からの市政に関する要望等に最後まで応じてくれた。毎年7月は法務省主催の「社会を明るくする運動」が開催され、今年は75回であり、弘前地区でも7月6日（日）に決起大会が開催された。その目玉として昨年暮れの衆議院議員選挙で、自民党議員を破り初当選された立憲民主党の女性議員を招待すべく、保護司会会長として同部長に具申して却下されていた因縁から、やや反感の気持ちを持つていたが、忠靈塔の今後の事を想い持っていたが、忠靈塔の今後の事を想い感謝の心で対応した。そもそも戦没者に関する市役所の所掌事務が、福祉部という障害者や生活保護受給者などを対象とする福祉部なのかな不満とするところでもあつた。

来賓退場の後、役員は会場の後片付けに汗を流した。呑んだビールや酒も醒めて仕舞う暑い中での作業となつた。同会には、小生始め当会三上会員、帶川会員、北畠会員、渋谷会員、田中会員、上月会員及び櫻庭会員の8名が参加した。その様子は、翌28日に地元新聞陸奥新報の二面に大きく報道され、県民及び市民に大きな関心を呼んだ。

祭会場のテントの写真が掲載された。

7月28日  
月曜日

青森県弘前市

戦没者供養 平和へ祈り  
弘前忠靈塔で例大祭



# 陸奥新報

（出典：『陸奥新報』）

例大祭翌日は、引き続き猛暑の中、テントの撤収作業を役員でもある偕行会員3人を含む7人で行った。テントの貸し主である地元堀江建設（明治時代に弘前偕行社を建てた会社）の社員・操縦手と助手2人の支援があつたものの、重い支柱とシート及び重しへロツクの回収は老体に応えた。

7月も終わり、いよいよ8月は「弘前ねぶたまつり」である。弘前桜祭りに合わせて5日間全室を一般公開したのに続き、ねぶたまつり期間中の1日から3日とお盆となる12日から14日の6日間も忠靈塔本堂、納骨堂、礼拝の間など全室を一般公開した。時間は午前9時から午後4時までの間で、毎日2名の役員が説明に当たった。偕行会員は6日間7名が担

来場者には、先ず、本堂前の常時開放室に掲示されている青森県戦没者銘板2万9176柱の氏名と約1700の骨壺を説明する。併せてお釈迦様の仏舎利及び三藏法師の靈骨が納められている。全国でも希少な忠靈塔であることを加える。引き続き、本堂に案内し、仏舎利及び三藏法師の靈骨が納められている金庫と忠靈塔の本尊・木造の軍神像を説明する。次いで、拜礼の間を通り第一展示室では、戦争の記録をパネルを使って説明する。引き続き、納骨堂4室を時計回りに案内し、第2展示室では、特攻隊の記録を写真、遺書、パネルで説明する。来塔者の感想文では、「様々な寺社仏閣を巡っておりますが、これほど立派な忠靈塔を見たのは初めてです（東京都）」、「○○遺族会15名礼拝、数名の方が遺族の名前や骨壺を確認され、感激されていました（青森県）」、「ニュージーランドからの観光客です。雰囲気がとつても良いです。有り難う御座います」などが記録帳から確認された。

全国の陸修偕行社会員の皆様、是非弘前を訪問して下さい。青森県偕行会がご案内致します。

当した。